

科目名	情報科学Ⅰ						
科目名(英)	Information ScienceⅠ						
単位数	1単位		時間数	15時間		担当者	西木 智子
実施年度	2022年度		実施時期	前期		担当者実務経験	大学等にて非常勤講師として勤務
対象学科・学年	看護科・1年						
授業概要	社会が望んでいる医療の情報化及び安全な医療を実現する為に、情報の管理や情報の利用について正しく理解する事が不可欠であることから、医療と看護に必要な情報の基礎知識と情報倫理について学ぶ。(DP2・3)						
授業形式	講義：○		演習：	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				情報の基礎知識について理解することができる。	
	○	○				医療・看護における情報システムを理解できる。	
	○	○		○		情報科学の初歩的理論をもとに、情報に対する責任および倫理について考え、情報のもつ重要性を理解する。	
テキスト・教材 参考図書	テキストなし 講師配布資料						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	情報科学の基礎				テキスト、資料の事前通読及び指定課題への取り組み	
	2	医療・看護とコンピューター				指定課題への取り組み	
	3	看護と情報科学の将来				指定課題への取り組み	
	4	情報収集の方法①				指定課題への取り組み	
	5	情報収集の方法②				指定課題への取り組み	
	6	看護と情報に関する倫理①				指定課題への取り組み	
	7	看護と情報に関する倫理②				指定課題への取り組み	
	8	まとめ				指定課題への取り組み	
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
評価方法	・60%以上を合格とし、59%以下は再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				80%
	授業態度				◎		20%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	情報科学Ⅱ										
科目名(英)	Information ScienceⅡ										
単位数	1単位		時間数		30時間		担当者		西木 智子		
実施年度	2022年度		実施時期		前期		担当者実務経験		大学等にて非常勤講師として勤務		
対象学科・学年	看護科・1年										
授業概要	社会が望んでいる医療の情報化を実現する為に、情報の管理や情報の利用について正しく理解する事が不可欠であることから、情報活用能力を高めるために、Word、Excel、パワーポイントについて学ぶ。(DP3・4・5)										
授業形式	講義：△		演習：		実習：		実技：○		※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標					
	○			○		情報科学の基礎理論やその技術的側面としてのコンピューター操作に関する知識・技術を習得する。					
	○	○	○			情報がもたらす問題に気づき、リスク管理と安全なインターネットの利用方法が理解できる。					
テキスト・教材 参考図書	実教出版企画開発部：『30時間でマスター office2019』, 実教出版										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	情報科学の基礎					テキスト、資料の事前通読及び指定課題への取り組み				
	2	Wordの基本操作①(キーボード操作, 簡単な文章入力, ローマ字入力)					指定課題への取り組み				
	3	Wordの基本操作②(簡単な文章入力と文書作成と編集、表作成)					指定課題への取り組み				
	4	Word応用編①(文書に表入りの文書を作成する, 図と表の挿入)					指定課題への取り組み				
	5	Word応用編②(縦書き文章, 段組み, その他の応用機能を学ぶ)					指定課題への取り組み				
	6	Wordまとめ					指定課題への取り組み				
	7	Excelの基礎的操作①(表作成, 色, セルに関する操作, 基礎機能の理解)					指定課題への取り組み				
	8	Excelの基本操作②(グラフ作成、グラフの編集機能と補助的な機能)					指定課題への取り組み				
	9	Excelの関数を用いたデータの処理					指定課題への取り組み				
	10	Excelまとめ					指定課題への取り組み				
	11	パワーポイントの操作方法－基礎					指定課題への取り組み				
	12	パワーポイントの操作方法－図の挿入					指定課題への取り組み				
	13	パワーポイントの操作方法－アニメーション					指定課題への取り組み				
	14	インターネットについて					指定課題への取り組み				
	15	まとめ					指定課題への取り組み				
環境	・60%以上を合格とし、59%以下は再試験対象となる。										
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	実技試験			◎	◎			80%			
	授業態度					◎		20%			
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。										

科目名	異文化の理解と交流						
科目名(英)	Cross-Cultural Understanding and Exchange						
単位数	1単位		時間数	30時間		担当者	①芋川浩・佐野麻由子・陸麗君②Robert Joseph Mindrum・ンソンブン
実施年度	2022年度		実施時期	前期		担当者実務経験	①大学にて准教授として、②学校にて外国語教師として勤務
対象学科・学年	看護科・1年						
授業概要	人々の背景にある異なった文化・生活を知り異文化理解に対する意識を高めるとともに自国の文化へも目を向け、多様な価値観を受け入れる姿勢を身に付ける。(DP1・3・4)						
授業形式	講義：○		演習：△		実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		日本の文化・生活、人々の考え方など多様な生活・価値観を説明することができる。	
	○	○		○		諸外国の文化・生活、人々の考え方など多様な生活・価値観があることを説明することができる。	
	○	○		○		国際社会における多様な価値観の理解と交流の重要性について説明ができる。	
テキスト・教材 参考図書	テキストなし 講師配布資料						
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	1	異文化理解の目的					テキスト、資料の事前通読及び指定課題への取り組み
	2	日本(諸地域)の文化・生活の理解					指定課題への取り組み
	3	日本(諸地域)の文化・生活の理解					指定課題への取り組み
	4	異文化交流の実際(諸外国の方との交流・日本文化の紹介)					指定課題への取り組み
	5	諸外国(アフリカ・米国・EU・東南アジア)の文化・生活の理解					指定課題への取り組み
	6	諸外国(アフリカ・米国・EU・東南アジア)の文化・生活の理解					指定課題への取り組み
	7	諸外国(アフリカ・米国・EU・東南アジア)の文化・生活の理解(交流)					指定課題への取り組み
	8	諸外国(アフリカ・米国・EU・東南アジア)の文化・生活の理解(交流)					指定課題への取り組み
	9	中華人民共和国の文化・生活の理解					指定課題への取り組み
	10	中華人民共和国の文化・生活の理解(交流・日常会話の理解)					指定課題への取り組み
	11	中華人民共和国の文化・生活の理解(交流・日常会話の実践)					指定課題への取り組み
	12	大韓民国の文化・生活の理解					指定課題への取り組み
	13	大韓民国の文化・生活の理解(交流・日常会話の理解)					指定課題への取り組み
	14	大韓民国の文化・生活の理解(交流・日常会話の実践)					指定課題への取り組み
	15	異文化理解について自己の考えの発表					指定課題への取り組み
評価方法	・60%以上を合格とし、59%以下は再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				80%
	授業態度				◎		20%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	看護倫理						
科目名(英)	Nursing Ethics						
単位数	1単位		時間数	30時間		担当者	①土持貴志②福田和美
実施年度	2022年度		実施時期	前期		担当者実務経験	①大学にて講師②病院にて看護師として勤務
対象学科・学年	看護科・1年						
授業概要	看護専門職者として、倫理的問題について考える能力と倫理観を備えるためにも、生命倫理・看護倫理・倫理的問題など基本的な倫理について学び、倫理的態度を身につける。(DP1・2)						
授業形式	講義：○		演習：△		実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				看護倫理の基盤となる倫理と生命倫理の基礎について理解できる。	
	○	○				看護倫理の基礎について理解できる。	
	○	○				看護実践における倫理的問題について理解できる。	
	○	○				倫理的問題にアプローチするための基本的な考え方が理解できる。	
	○	○		○		看護専門職者として必要な倫理観を養うことができる。	
テキスト・教材 参考図書	『考えよう！生と死のこと』木星舎 『看護学テキストシリーズNice 看護倫理』南江堂						
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	1	倫理学の基本的な考え方					テキスト、資料の事前通読及び指定課題への取り組み
	2	生命倫理					指定課題への取り組み
	3・4	性と生殖の生命倫理③④					指定課題への取り組み
	5・6・7	死の生命倫理					指定課題への取り組み
	8	先端医療と制度をめぐる生命倫理					指定課題への取り組み
	9	看護倫理を学ぶ意義・倫理の歴史					指定課題への取り組み
	10	倫理的概念					指定課題への取り組み
	11	看護職の倫理綱領を読み解く					指定課題への取り組み
	12	保健師助産師看護師法と倫理					指定課題への取り組み
	13・14	倫理原則					指定課題への取り組み
	15	倫理的問題へのアプローチ					指定課題への取り組み
評価方法	・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				80%
	授業態度				◎		20%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	GCB I（社会人基礎力）						
科目名(英)	Global Citizen Basic I (Basic Skills for Working)						
単位数	1単位	時間数	15時間	担当者	徳久 晶子		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	専門学校にて専任教員として勤務		
対象学科・学年	看護科・1年						
授業概要	様々な場所で看護師として活躍していくために必要な、相手に対する思いやりと感謝の心やマナーを学ぶ。また、チームの一員として看護師が能力を発揮するための協働する力を学ぶ。(DP1・2・4・6)						
授業形式	講義： ○	演習： △	実習：	実技： △	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				社会人に必要なマナーを身につけることができる。	
	○	○				社会人として能力を発揮できるための社会人基礎力の基礎を身につけることができる。	
	○	○		○		グローバル・シティズンとは何かを理解し、自分が恵まれた環境にあることに感謝することができる。	
	○			○		仲間を大切に、協働の気持ちを持つことの重要性を考え、気づくことができる。	
	○					医療従事者として、正しいことば遣いを理解することができる。	
			○			医療従事者として、立ち振舞の基本と応用を実践することができる。	
○	○					看護師として医療チームの中でより良いコミュニケーションを取るために必要なことは何かを考える。	
テキスト・教材 参考図書	テキストなし 講師配布資料						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	GCB(グローバルシティズンベシック)・社会人基礎力とは			テキスト、資料の事前通読及び指定課題への取り組み		
	2	モラル・ルール・マナーの重要性			指定課題への取り組み		
	3	マナーの本質(身だしなみ、挨拶／敬意を払うこと)、医療従事者としての言葉づかい			指定課題への取り組み		
	4	協働することの必要性			指定課題への取り組み		
	5	報告・連絡・相談			指定課題への取り組み		
	6	スケジュール管理			指定課題への取り組み		
	7	立ちふるまいの基本と実践			指定課題への取り組み		
	8	まとめ			指定課題への取り組み		
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
評価方法	・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				80%
	授業態度				◎		20%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	GCB II（キャリアデザイン）						
科目名(英)	Global Citizen Basic II（Career Design）						
単位数	1単位		時間数	30時間		担当者	徳久 晶子
実施年度	2022年度		実施時期	通年		担当者実務経験	専門学校にて専任教員として勤務
対象学科・学年	看護科・1年						
授業概要	看護師は常に学び続ける生涯学習者であり、どのような看護師になりたいかとキャリアデザインを描くことが大切である。様々な看護師の語りを聞くことで、現在思い描いている志を確固たるものとし、生涯学習者として必要な学ぶ姿勢、学習方法を身につけることを目的とする。（DP1・2・5・6）						
授業形式	講義：○		演習：△		実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△
学習目標 （到達目標）	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				看護師への志を述べることができる。	
	○	○				これからの看護学生・看護師に対するキャリアデザインを述べることができる。	
	○	○				キャリアデザイン実現のための学習方法の基礎を実践することができる。	
テキスト・教材 参考図書	テキストなし 講師配布資料						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	生涯学習者としての学習方法の基礎知識：ラーニングピラミッド				テキスト、資料の事前通読及び指定課題への取り組み	
	2	生涯学習者としての学習方法の基礎知識：知識・行動パターン・能力の獲得プロセス				指定課題への取り組み	
	3	学習方法の実践（インプット・アウトプット）				指定課題への取り組み	
	4	学習計画の立案・発表				指定課題への取り組み	
	5	キャリアデザインとは				指定課題への取り組み	
	6・7	看護師への夢と志について語り合おう				指定課題への取り組み	
	8・9・10	様々な現場で活躍する看護師へのインタビュー				指定課題への取り組み	
	11・12	自分のキャリアデザインについて明確化しよう				指定課題への取り組み	
	13・14	キャリアデザイン発表				指定課題への取り組み	
	15	まとめ				指定課題への取り組み	
	評価方法	・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
筆記試験		◎	◎				80%
授業態度					◎		20%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	地域と文化							
科目名(英)	Understanding for Region and Local Culture							
単位数	1単位		時間数	15時間		担当者	福本 純子	
実施年度	2022年度		実施時期	前期		担当者実務経験	大学にて講師として勤務	
対象学科・学年	看護科・1年							
授業概要	自分たちの住む地域の文化や歴史、自然、生業などを再発見し、その魅力や強みを発掘する。特定の地域を対象とし、その歴史や地理、経済、文化などを総合的、学際的に追求する。自らの地域に目を向けて、足元にあるあらゆる事象を調査研究、学習の対象として、実際にまちを歩きそこにあるものから何かを見いだす。(DP4・6)							
授業形式	講義： ○		演習： △		実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
	○	○				地域における様々な取組みの事例を通して「地域への働きかけ」を具体的に学ぶ。		
	○	○				飯塚の歴史について学ぶ。		
	○	○				文化的背景が人々の生活・健康に及ぼす影響を理解する。		
テキスト・教材 参考図書	講師配布資料 DVD『筑豊の歴史と文化』							
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示	
	1	地域で生きるということ					テキスト、資料の事前通読及び指定課題への取り組み	
	2	筑豊という地域を知る					指定課題への取り組み	
	3	飯塚(麻生グループの歴史含む)の歴史					指定課題への取り組み	
	4	フィールドワーク準備					指定課題への取り組み	
	5・6	フィールドワーク					指定課題への取り組み	
	7・8	まとめ発表会					指定課題への取り組み	
評価方法	・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。							
		言語情報		知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎		◎				80%
	授業態度					◎		20%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は、科目の評価を受ける資格を失う。							

科目名	人間関係論							
科目名(英)	Theory of Human Relation							
単位数	1単位		時間数	30時間		担当者	野見山 待子	
実施年度	2022年度		実施時期	前期		担当者実務経験	大学にて非常勤講師として勤務	
対象学科・学年	看護科・1年							
授業概要	社会・集団の中における人間と人間関係の中で、互いに自己・他者ととらえ、関係を築き、相互作用を受けながら、成長していく。この人間関係について理解し、互いをとらえていく能力を養い、看護実践につながる基礎を学ぶ。(DP4・6)							
授業形式	講義： ○		演習： △		実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
	○	○				人間関係の基礎について理解できる。		
	○	○				人間関係をつくる方法について理解できる。		
	○	○				保健医療における人間関係をつくる必要性について理解できる。		
	○	○				リフレクションやプロセスレコードの活用について理解できる。		
テキスト・教材 参考図書	テキストなし 講師配布資料							
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示	
	1	人間関係の基礎～人間関係の中の自己と他者・対人関係と役割					テキスト、資料の事前通読及び指定課題への取り組み	
	2	人間関係の基礎～態度と対人行動・集団と個人					指定課題への取り組み	
	3	人間関係をつくる理論と技法～アサーティブコミュニケーション					指定課題への取り組み	
	4	人間関係をつくる理論と技法(演習)					指定課題への取り組み	
	5	人間関係をつくる理論と技法～コーチング					指定課題への取り組み	
	6	人間関係をつくる理論と技法(演習)					指定課題への取り組み	
	7	保健医療チームの人間関係					指定課題への取り組み	
	8	家族を含めた人間関係					指定課題への取り組み	
	9	地域をつくる人間関係					指定課題への取り組み	
	10	患者を支える人間関係					指定課題への取り組み	
	11	リフレクションとは					指定課題への取り組み	
	12	リフレクション演習					指定課題への取り組み	
	13	プロセスレコードとは					指定課題への取り組み	
	14	プロセスレコード演習(事例1)					指定課題への取り組み	
	15	プロセスレコード演習(事例2)					指定課題への取り組み	
評価方法	・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	筆記試験	◎	◎				80%	
	授業態度				◎		20%	
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。							

科目名	人間のこころ							
科目名(英)	Understanding for Human Mind							
単位数	1単位		時間数	30時間		担当者	中島 俊介	
実施年度	2022年度		実施時期	前期		担当者実務経験	大学にて教授として勤務	
対象学科・学年	看護科・1年							
授業概要	看護の対象となる人間の「こころ」を探求する心理学の基礎的内容。人間の「こころ」のあり方をとらえて、自己の「こころ」のコントロール方法とともに、対象や専門職者の心理も理解して、看護実践につながる基礎を学ぶ。(DP1・3)							
授業形式	講義： ○		演習： △		実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
	○	○				人間のこころについて理解できる。		
	○	○				人間のこころと、思考行動の関連性について理解できる。		
	○	○				人間のこころのあり方と、コントロール方法について理解できる。		
	○	○				カウンセリングの方法・活用などについて理解できる。		
テキスト・教材 参考図書	『こころと人生』ナカニシヤ出版							
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示	
	1	「こころ」とは何か					テキスト、資料の事前通読及び指定課題への取り組み	
	2	こころの仕組みと働き					指定課題への取り組み	
	3	発達心理～発達段階における特徴					指定課題への取り組み	
	4	「こころ」の健康					指定課題への取り組み	
	5	「こころ」に伴う思考と行動～人の強み・個性・思考タイプ					指定課題への取り組み	
	6	「こころ」に伴う思考と行動～人の行動の背景					指定課題への取り組み	
	7	「こころ」と医療～患者の心理					指定課題への取り組み	
	8	「こころ」と医療～医療・看護職の心理					指定課題への取り組み	
	9	看護カウンセリングとは					指定課題への取り組み	
	10	ストレスとセルフケア					指定課題への取り組み	
	11	リフレーミング					指定課題への取り組み	
	12	臨床場面でのコミュニケーション方法					指定課題への取り組み	
	13	良質な睡眠とリラクセーション					指定課題への取り組み	
	14	希死念慮のある患者への対応					指定課題への取り組み	
	15	看護カウンセリングの実際					指定課題への取り組み	
評価方法	・筆記試験 60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	筆記試験	◎	◎				80%	
	授業態度				◎		20%	
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。							

科目名	人体の構造と機能総論						
科目名(英)	Outline of Structure and Function of Human Body						
単位数	1単位	時間数	15時間	担当者	松ノ木 幸恵		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	病院にて看護師として勤務		
対象学科・学年	看護科・1年						
授業概要	人体の発生からその構造と機能についての基礎知識を養う。人体の構造・機能を基礎に、各器官別解剖生理の理解、さらには各病態生理学へと発展させ、系統的に理解する事をねらいとした。 本科目では、細胞と組織、解剖学的用語について学び、身体内部の変化について理解し、科学的根拠に基づいた看護を展開するための基礎知識とする。(DP3)						
授業形式	講義：○	演習：△	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				解剖学・生理学の定義を説明できる。	
	○	○				人体の細胞・組織の基本的構造について説明できる。	
	○	○				人体の細胞・組織の機能を説明できる。	
	○	○				ホメオスタシスの定義とその機構について説明できる。	
	○	○				フィードバック機構について説明できる。	
	○	○				体温調整機能について説明できる。	
	○	○				人体の器官別臓器の解剖・生理について説明できる。	
	○	○				器官別臓器の名称・位置づけを説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	『系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能』医学書院						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	解剖学・生理学とは、解剖学的用語				テキスト、資料の事前通読及び指定課題への取り組み	
	2	ホメオスタシスの定義、機構、フィードバック機構				指定課題への取り組み	
	3	細胞の構造、機能、分化・成長・異化				指定課題への取り組み	
	4	人体を構成する4種の組織(上皮組織・支持組織・筋組織・神経組織)				指定課題への取り組み	
	5	体内の膜(漿膜、粘膜、結合組織性の膜)の構造				指定課題への取り組み	
	6	人体の器官別臓器の解剖・生理				指定課題への取り組み	
	7	器官別臓器の名称・位置づけ:GW人体模型の作成				指定課題への取り組み	
	8						
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
評価方法	・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				80%
	授業態度				◎		20%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	人体の構造と機能 I										
科目名(英)	Structure and Function of Human Body I										
単位数	1単位		時間数		30時間		担当者		小金丸 翔子		
実施年度	2022年度		実施時期		通年		担当者実務経験		病院にて看護師として勤務		
対象学科・学年	看護科・1年										
授業概要	人体の機能と構造を系統的に理解することで、科学的根拠に基づいた観察や判断ができる能力を身につける。本科目では、血液・循環・リンパ・免疫について学び、身体内部の変化について理解し、科学的根拠に基づいた看護を展開するための基礎知識とする。(DP3)										
授業形式	講義：○		演習：△		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標					
	○	○				血液の生理と造血のしくみ・免疫について理解できる。					
	○	○				循環器系の構造と機能が理解できる。					
	○	○				免疫系の構造と機能が理解できる。					
テキスト・教材 参考図書	『系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能』医学書院 講師配布資料										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	人体の解剖と機能 I の概要説明					テキスト、資料の事前通読及び指定課題への取り組み				
	2	血液の機能と成分					指定課題への取り組み				
	3	血球とその機能					指定課題への取り組み				
	4	血液型と輸血					指定課題への取り組み				
	5	心臓の構造と機能					指定課題への取り組み				
	6・7	血管と循環					指定課題への取り組み				
	8	心臓・血管の成長と老化					指定課題への取り組み				
	9	リンパ系					指定課題への取り組み				
	10	免疫系のおおまかなしくみ					指定課題への取り組み				
	11	獲得免疫系のしくみ					指定課題への取り組み				
	12	免疫系と感染症					指定課題への取り組み				
	13・14	各器官の解剖の構造と機能を踏まえてテーマ学習					指定課題への取り組み				
	15	まとめ					指定課題への取り組み				
評価方法	・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。										
						言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験					◎	◎				80%
	授業態度								◎		20%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。										

科目名	人体の構造と機能Ⅱ						
科目名(英)	Structure and Function of Human BodyⅡ						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	野中 紀子		
実施年度	2022年度	実施時期	通年	担当者実務経験	病院にて看護師として勤務		
対象学科・学年	看護科・1年						
授業概要	人体の発生からその構造と機能についての基礎知識を養う。人体の構造・機能を基礎に病気と治療で系統的に理解する事をねらいとした。呼吸器では生命維持に必要な酸素の調整を司る器官の正常な構造と機能を理解し、身体的側面のアセスメント能力の基礎的知識と科学的根拠・観察力・判断力を養う。消化器では生命維持に必要な栄養の摂取と代謝を司る器官の正常な構造と機能を理解し、身体的側面のアセスメント能力を養う。腎泌尿器では生命維持に必要な水分(体液)の調整「情報処理・調整」について理解し、身体的側面のアセスメント能力を養う。(DP3)						
授業形式	講義：○	演習：△	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				呼吸器系の構造と機能が理解できる。	
	○	○				栄養摂取と吸収を司る器官の構造と機能を理解できる。	
	○	○				腎泌尿器のしくみと機能について理解する。	
	○	○				呼吸器・消化器・腎泌尿器の解剖生理を理解し、病態の理解や看護をする上での身体的側面のアセスメント能力を養うことができる。	
テキスト・教材 参考図書	『系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能』医学書院 講師配布資料						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	呼吸器系の構造と機能(呼吸器系の役割、鼻と鼻腔、咽頭、喉頭、気管と主気管支、肺)				テキスト、資料の事前通読及び指定課題への取り組み	
	2	呼吸のプロセス(換気、外呼吸・内呼吸、ガスの運搬)				指定課題への取り組み	
	3	呼吸の調節(化学受容器と呼吸器系の受容器、呼吸中枢)				指定課題への取り組み	
	4	呼吸の調節(呼吸調節の効果器である呼吸筋、呼吸のさまざまな異常)呼吸器系の成長と老化				指定課題への取り組み	
	5	食欲(食欲と摂食行動、食欲の調節)咀嚼(口腔の構造と機能、歯、咀嚼)				指定課題への取り組み	
	6	嚥下(咽頭の構造と機能、食道の構造と機能)				指定課題への取り組み	
	7	消化(胃の構造と機能、小腸の構造と機能、肝臓の構造と機能、胆嚢の構造と機能、膵臓の構造と機能)				指定課題への取り組み	
	8	吸収(糖質の消化と吸収、脂肪の消化と吸収、タンパク質の消化と吸収、ビタミンの吸収、水の吸収)				指定課題への取り組み	
	9	排泄 ①大腸の構造と機能②排便の機序消化器系の成長と老化				指定課題への取り組み	
	10	腎臓(腎臓の構造と機能、尿の生成、血液成分の調節)				指定課題への取り組み	
	11	尿管・膀胱・尿道				指定課題への取り組み	
	12	排尿の生理(蓄尿の機構、排尿の機構、骨盤底筋群の役割)泌尿器系の成長と老化				指定課題への取り組み	
	13・14	各器官の解剖の構造と機能を踏まえてテーマ学習				指定課題への取り組み	
	15	まとめ				指定課題への取り組み	
評価方法	・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				80%
	授業態度				◎		20%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	人体の構造と機能Ⅲ						
科目名(英)	Structure and Function of Human BodyⅢ						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	松本 好美		
実施年度	2022年度	実施時期	通年	担当者実務経験	病院にて看護師として勤務		
対象学科・学年	看護科・1年						
授業概要	身体の中の情報ネットワークとして、身体を機能させる指令情報を伝達する、身体が受けとる感覚情報を伝達する、身体の恒常性を調整する、これら神経系・感覚器系・内分泌系に関わる仕組みと働きについて学ぶ。(DP3・4)						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標	
	○	○				中枢神経系の構造と機能について説明できる。	
	○	○				末梢神経系の構造と機能について説明できる。	
	○	○				感覚受容器の構造と機能について説明できる。	
	○	○				中枢神経と末梢神経と感覚器のつながりを説明できる。	
	○	○				内分泌の構造と機能が理解できる。	
テキスト・教材 参考図書	『系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能』医学書院 講師配布資料						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	神経系(構造に基づく分類、神経組織、興奮の伝導・伝達)				テキスト、資料の事前通読及び指定課題への取り組み	
	2	中枢神経(脳を守る構造と機能:髄膜と髄液と脳室)(脳の構造と機能:大脳、小脳、脳幹、間脳)				指定課題への取り組み	
	3	中枢神経(脳の構造と機能:大脳、小脳、脳幹、間脳)(脊髄の構造と機能、反射)				指定課題への取り組み	
	4	末梢神経(脳神経、脊髄神経)(自律神経)、神経伝達物質 神経の伝導路(下行伝導路、上行伝導路)、反射の種類としくみ				指定課題への取り組み	
	5	感覚受容器(感覚の種類)、体性感覚(深部感覚)、内臓感覚(内臓感覚の受容器と機能)				指定課題への取り組み	
	6	体性感覚(皮膚感覚:皮膚の構造と機能、触覚、圧覚、温度感覚、痛覚)				指定課題への取り組み	
	7	特殊感覚(視覚:眼球の構造と機能、視覚、視覚伝導路、眼球運動、眼球付属器、反射)				指定課題への取り組み	
	8	特殊感覚(聴覚:耳の構造と機能、聴覚、聴覚伝導路、平衡覚)(嗅覚、味覚、各伝導路)				指定課題への取り組み	
	9	中枢神経と末梢神経と感覚器のつながり、脳循環(脳に分布する血管)まとめ				指定課題への取り組み	
	10	内分泌系とホルモン(ホルモンの概念、フィードバック機序) 脳にあるホルモン分泌器官(視床下部、下垂体、松果体)				指定課題への取り組み	
	11	甲状腺、上皮小体、膵臓、副腎、性腺、				指定課題への取り組み	
	12	消化管、腎臓、胸腺、心臓、内分泌系の成長と老化				指定課題への取り組み	
	13・14	各器官の解剖の構造と機能を踏まえてテーマ学習				指定課題への取り組み	
	15	まとめ				指定課題への取り組み	
評価方法	・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				80%
	授業態度				◎		20%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	人体の構造と機能Ⅳ							
科目名(英)	Structure and Function of Human BodyⅣ							
単位数	1単位		時間数	30時間		担当者	松藤 沙弥香	
実施年度	2022年度		実施時期	通年		担当者実務経験	病院にて助産師として勤務	
対象学科・学年	看護科・1年							
授業概要	人体の機能と構造を系統的に理解することで、科学的根拠に基づいた観察や判断ができる能力を身につける。本科目では、骨筋・生殖器・遺伝・染色体・妊娠・分娩について学び、身体内部の変化について理解し、科学的根拠に基づいた看護を展開するための基礎知識とする。(DP3)							
授業形式	講義：○		演習：△		実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
	○	○				人体の骨格系および筋系の構造と機能について理解できる。		
	○	○				人体の支持と運動機能における様々な働きについて理解できる。		
	○	○				生殖器のしくみと機能について理解できる。		
	○	○				妊娠と出産の経過について理解できる。		
テキスト・教材 参考図書	『系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能』医学書院 講師配布資料							
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示	
	1	人体の解剖と機能Ⅳの概要説明					テキスト、資料の事前通読及び指定課題への取り組み	
	2	骨と骨格・骨の組織、骨の働き・骨の形態					指定課題への取り組み	
	3	関節の構造と種類					指定課題への取り組み	
	4	筋の種類と機能					指定課題への取り組み	
	5	身体の運動と骨格筋					指定課題への取り組み	
	6	女性生殖器の構造と機能					指定課題への取り組み	
	7	性周期・乳腺					指定課題への取り組み	
	8	妊娠の成立と胎児の発育					指定課題への取り組み	
	9	分娩の機序・経過					指定課題への取り組み	
	10	産褥の経過					指定課題への取り組み	
	11	乳房の構造と泌乳のメカニズム・女性生殖器の成長と老化					指定課題への取り組み	
	12	男性生殖器の構造と機能					指定課題への取り組み	
	13	各器官の解剖の構造と機能を踏まえてテーマ学習					指定課題への取り組み	
	14	各器官の解剖の構造と機能を踏まえてテーマ学習					指定課題への取り組み	
	15	まとめ					指定課題への取り組み	
評価方法	・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。							
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験		◎	◎				80%
	授業態度					◎		20%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。							

科目名	病態と治療 I						
科目名(英)	Pathophysiology and Therapeutics I						
単位数	1単位		時間数	30時間		担当者	井上 修二郎
実施年度	2022年度		実施時期	通年		担当者実務経験	病院にて医師として勤務
対象学科・学年	看護科・1年						
授業概要	血液器系・循環器系・リンパ・免疫・内分泌系骨筋器系疾患がもたらす身体内部の変化について理解し、科学的根拠に基づいた看護を展開するための知識を学ぶ。(DP3)						
授業形式	講義：○		演習：	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				血液造血器系の病態と検査・治療について述べることができる。	
	○	○				循環器系の病態と検査・治療について述べることができる。	
	○	○				免疫系の病態と検査・治療について述べることができる。	
テキスト・教材 参考図書	『病気がみえる5 血液』メディックメディア 『病気がみえる2 循環器』メディックメディア 『病気がみえる6 免疫・膠原病・感染症』メディックメディア 講師配布資料						
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	1	血液造血器系の病態の理解：白血球増加症・減少症					テキスト、資料の事前通読及び指定課題への取り組み
	2	血液造血器系の病態の理解：貧血・脾腫					指定課題への取り組み
	3	血液造血器系の病態の理解：赤血球系の疾患、白血球系の疾患					指定課題への取り組み
	4	血液造血器系の病態の理解：リンパ網内系疾患、出血性疾患					指定課題への取り組み
	5	循環器系の病態と理解：胸痛・動機・呼吸困難					指定課題への取り組み
	6	循環器系の病態の理解：浮腫・チアノーゼ・四肢の疼痛					指定課題への取り組み
	7	循環器系の病態の理解：虚血性心疾患・心不全					指定課題への取り組み
	8	循環器系の病態の理解：血圧異常・不整脈					指定課題への取り組み
	9	循環器系の病態の理解：心膜炎・心筋疾患、					指定課題への取り組み
	10	循環器系の病態の理解：肺性心・動静脈系疾患					指定課題への取り組み
	11	循環器系の病態の理解：リンパ系疾患、高脂血症					指定課題への取り組み
	12・13	免疫系の病態の理解：膠原病(関節痛・関節炎・レイノー現象など)					指定課題への取り組み
	14・15	免疫系の病態の理解：関節リウマチ・全身性エリテマトーデス・シェーングレン症候群・全身性強皮症・多発筋炎・皮膚筋炎・ベーチェット病など					指定課題への取り組み
	評価方法	・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
筆記試験		◎	◎				80%
授業態度					◎		20%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	病態と治療Ⅱ										
科目名(英)	Pathophysiology and TherapeuticsⅡ										
単位数	2単位		時間数		45時間		担当者		井村 洋		
実施年度	2022年度		実施時期		通年		担当者実務経験		病院にて医師として勤務		
対象学科・学年	看護科・1年										
授業概要	呼吸器系・消化器系・腎泌尿器疾患がもたらす身体内部の変化について理解し、科学的根拠に基づいた看護を展開するための知識を学ぶ。(DP3)										
授業形式	講義：○		演習：		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標					
	○	○				呼吸器系疾患の病態と検査・治療について述べることができる。					
	○	○				消化器系疾患の病態と検査・治療について述べることができる。					
	○	○				腎・泌尿器系疾患の病態と検査・治療について述べることができる。					
テキスト・教材 参考図書	『病気がみえる4 呼吸器』メディックメディア 『病気がみえる1 消化器』メディックメディア 『病気がみえる8 腎・泌尿器』メディックメディア										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1・2	呼吸器系の病態の理解：気道疾患					テキスト、資料の事前通読及び指定課題への取り組み				
	3	呼吸器系の病態の理解：腫瘍疾患					指定課題への取り組み				
	4	呼吸器系の病態の理解：間質性肺疾患・感染症					指定課題への取り組み				
	5	呼吸器系の病態の理解：胸膜・縦隔疾患					指定課題への取り組み				
	6	呼吸器系の病態の理解：肺循環疾患・呼吸不全					指定課題への取り組み				
	7	呼吸器系の病態の理解：呼吸調節に関する疾患・胸部外傷					指定課題への取り組み				
	8・9	消化器系の病態の理解：食道疾患					指定課題への取り組み				
	10・ 11・12	消化器系の病態の理解：胃・十二指腸疾患					指定課題への取り組み				
	13・ 14・ 15・16	消化器系の病態の理解：胆のう・膵臓疾患					指定課題への取り組み				
	17・18・ 19	腎泌尿器系の病態の理解：腎疾患					指定課題への取り組み				
	20・21・ 22	腎泌尿器系の病態の理解：泌尿器疾患					指定課題への取り組み				
	評価方法	・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。									
					言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
筆記試験					◎	◎				80%	
授業態度								◎		20%	
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。										

科目名	病理学													
科目名(英)	Pathology													
単位数	1単位		時間数		15時間		担当者		大石 善丈					
実施年度	2022年度		実施時期		前期		担当者実務経験		病院にて医師として勤務					
対象学科・学年	看護科・1年													
授業概要	疾患を科学的に理解し整理した知識は、看護実践の根拠となる。ここでは病理学の概念、病態の形態学的特徴や成立過程、健康障害のしくみについて学び、疾病を学ぶ上での基礎的能力を養う。(DP3)													
授業形式	講義：○		演習：		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△					
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標								
	○	○				様々な疾患の病因となる基本的なメカニズムとその特徴が理解できる。								
	○	○				病理学における用語が理解できる。								
	○	○				代表的な疾患の症状、兆候の原因、病態生理や診断の概要が理解できる。								
テキスト・教材 参考図書	『病理学』医学書院													
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示							
	1	病理学総論～病気とは、生体の回復力・ホメオスタシス・老化と死					テキスト、資料の事前通読及び指定課題への取り組み							
	2	細胞・組織と再生修復					指定課題への取り組み							
	3	炎症(定義・分類)					指定課題への取り組み							
	4	炎症(原因・病態)					指定課題への取り組み							
	5	免疫とその異常					指定課題への取り組み							
	6	循環障害(定義・分類)					指定課題への取り組み							
	7	循環障害(原因・病態)					指定課題への取り組み							
	8	腫瘍(定義・分類)					指定課題への取り組み							
	9	腫瘍(原因・病態)					指定課題への取り組み							
	10	生活習慣病・代謝性疾患					指定課題への取り組み							
	11	難病・代謝障害					指定課題への取り組み							
	12	脳・神経変性疾患					指定課題への取り組み							
	13・14	病理解剖(視聴覚教材や解剖見学など)					指定課題への取り組み							
	15	学びのまとめ					指定課題への取り組み							
評価方法	・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。													
			言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合	
	筆記試験		◎		◎								80%	
	授業態度								◎				20%	
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。													

科目名	微生物と感染症						
科目名(英)	Microbiology Infectious Diseases Specialty						
単位数	1単位		時間数	30時間		担当者	的野 多加志
実施年度	2022年度		実施時期	前期		担当者実務経験	病院にて医師として勤務
対象学科・学年	看護科・1年						
授業概要	健康と生命をおびやかす感染症を引き起こすものとしての微生物、有機物を分解して体内・地球の環境を美しく保ってくれる微生物の基礎知識、感染と発病、感染予防と治療について学ぶ。 感染性疾患がもたらす身体内部の変化について理解し、看護師としてどのように感染を予防するか、科学的根拠に基づいた看護を展開する基礎知識を学ぶ。(DP3)						
授業形式	講義： ○		演習： △	実習：		実技：	※ 主たる方法：○ その他：△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				感染症の原因となる病原微生物の特徴を学び、それらを踏まえた上で、感染のメカニズム・予防・治療について理解する。	
	○	○				感染症疾患をもつ患者のフィジカルアセスメントができる知識を習得し、治療の方法を理解する。	
テキスト・教材 参考図書	『病気がみえる6 免疫・膠原病・感染症』メディックメディア 講師配布資料						
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	1	1. 微生物学の基礎 1)微生物の性質 2)細菌の性質					テキスト、資料の事前通読及び指定課題への取り組み
	2	3)真菌の性質 4)原虫の性質 5)ウイルスの性質					指定課題への取り組み
	3	2. 感染とその防御 1)細菌・真菌・原虫・ウイルスの機構 2)感染に対する生体防御機構					指定課題への取り組み
	4	3)感染源・感染経路からみた感染症					指定課題への取り組み
	5	4)感染症の検査と診断 5)感染症の治療					指定課題への取り組み
	6	6)感染症の現状と対策					指定課題への取り組み
	7	7)病原細菌と細菌感染症 8)病原真菌と真菌感染症					指定課題への取り組み
	8	9)病原原虫と原虫感染症 10)病原ウイルスとウイルス感染症					指定課題への取り組み
	9	11)滅菌と消毒 ①感染対策の基本(標準予防策と経路別予防策)					指定課題への取り組み
	10	11)滅菌と消毒 ②個人防護具の使用法					指定課題への取り組み
	11	1. 感染症とは 1)感染症とはなにか 2)感染が成立する条件 3)感染症の病態生理 4)感染症でみられる症状					指定課題への取り組み
	12	2. 検査・診断 1)感染症診断の原則 2)検査・診断・治療の流れ 3)検査の実際					指定課題への取り組み
	13	3. 治療 1)感染症治療の原則 2)抗菌薬 3)抗真菌薬 4)抗ウイルス薬 5)一次予防と二次予防					指定課題への取り組み
	14	4. 疾患の理解 1)発熱・不明熱 2)呼吸器系感染症 3)心血管系感染症 4)消化器系感染症 5)肝胆道系感染症 6)尿路感染症 7)性感染症 8)皮膚軟部組織感染症 9)眼の感染症 10)中枢神経系					指定課題への取り組み
	15	11)悪性腫瘍、造血幹細胞移植、固定臓器、移植に伴う感染症 12)菌血症・敗血症 13)人動物咬傷 14)麻疹・風疹・水痘 15)真菌感染症 16)寄生虫感染症 17)HIV感染症と日和見感染症 18)多剤耐性菌感染症					指定課題への取り組み
評価方法	・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				80%
	授業態度				◎		20%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	生体の化学と栄養						
科目名(英)	Nutritional Science						
単位数	1単位		時間数	30時間		担当者	①有吉裕子②重松由美
実施年度	2022年度		実施時期	前期		担当者実務経験	病院にて①臨床検査技師②栄養士として勤務
対象学科・学年	看護科・1年						
授業概要	生化学とは生命現象に関する事柄を化学的に解明しようとする学問である。生体の構造や機能について分析し、生命現象の本質を知ることが目的としからだの不思議について学ぶ。また栄養学では栄養と看護の関連を考え健康と食生活、治療、栄養マネジメントについて学ぶ。(DP3・4)						
授業形式	講義：○		演習：		実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				化学の基礎知識や、細胞の構造と機能が理解できる。	
	○	○				三大栄養素の概要と身体の構成物質が理解できる。	
	○	○				代謝の基礎と酵素、および補酵素の基礎と役割を理解することができる。	
	○	○				遺伝情報の複製や発現のしくみ、異常から生じる病気が理解できる。	
	○	○				栄養管理の必要性や病院食の意義・種類が説明できる。	
	○	○				嚥下食と嚥下訓練について説明できる。	
	○	○				栄養管理におけるアセスメントの視点、チームアプローチについて説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	『ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能(2) 臨床生化学』, メディカ出版						
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	1	化学の基礎知識と細胞の構造と機能					テキスト、資料の事前通読及び指定課題への取り組み
	2	三大栄養素・身体の構成物質					指定課題への取り組み
	3	血液と尿尿・ホルモン					指定課題への取り組み
	4・5	代謝と代謝異常					指定課題への取り組み
	6	遺伝情報					指定課題への取り組み
	7	先天性代謝異常					指定課題への取り組み
	8	栄養学の意義と看護					テキスト、資料の事前通読及び指定課題への取り組み
	9	栄養アセスメント					指定課題への取り組み
	10	食品成分の食事摂取基準					指定課題への取り組み
	11	日常生活と栄養					指定課題への取り組み
	12	療養生活と栄養					指定課題への取り組み
	13	疾患別の栄養食事療法					指定課題への取り組み
	14	栄養食事指導の実際					指定課題への取り組み
	15	栄養管理におけるチームアプローチ					指定課題への取り組み
評価方法	・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				80%
	授業態度				◎		20%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	看護学概論						
科目名(英)	Overview of Nursing						
単位数	1単位		時間数	30時間		担当者	鈴木 葉子
実施年度	2022年度		実施時期	前期		担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
対象学科・学年	看護科・1年						
授業概要	看護への興味・関心を高め、各領域の看護学への学習意欲につなげられる看護の概観的知識を得られる科目となる。看護の基本となる概念を土台とし、看護とは何か、看護の対象への理解、看護の本質について考え、看護学の豊かさや奥深さをイメージする機会とする。(DP1・4・5・6)						
授業形式	講義： ○		演習： △	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				看護の対象である人間を理解し、加えて生活者としての人間について述べることができる。	
	○	○				健康および環境の概念を広く捉えて説明できる。	
	○	○				看護専門職者としての倫理的態度を身につける意義を述べることができる。	
	○	○				看護活動の場を理解し、保健・医療・福祉における看護の役割について説明できる。	
	○	○				看護の変遷をふまえ、今後の看護の課題と展望について自己の考えを述べることができる。	
	○	○				看護とは何か、自分の言葉で述べることができる。	
テキスト・教材 参考図書	宮脇美保子編：『新体系看護学全書 基礎看護学① 看護学概論』2021, メヂカルフレンド社 フローレンス・ナイチンゲール著 湯槇ます 他訳：『看護覚え書 改訂第7版』現代社 ヴァージニア・ヘンダーソン著 湯槇ます・児玉香津子訳：『看護の基本となるもの』日本看護協会出版会 講師配布資料						
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	1	オリエンテーション 看護学への導入					テキスト、資料の事前通読及び指定課題への取り組み
	2	看護とは何か 看護の主要概念 看護の定義					指定課題への取り組み
	3	看護の役割と機能 看護師の活動の場					指定課題への取り組み
	4	看護の対象 人間について考える 生活者としての人間					指定課題への取り組み
	5						指定課題への取り組み
	6	健康の概念 健康観					指定課題への取り組み
	7	環境の概念 人間を取り巻く環境					指定課題への取り組み
	8	保健・医療・福祉の連携 チーム医療とは					指定課題への取り組み
	9	看護と法					指定課題への取り組み
	10	看護における倫理とは					指定課題への取り組み
	11	看護の変遷 看護教育制度					指定課題への取り組み
	12	看護実践を支えるもの 専門職としての責任					指定課題への取り組み
	13	専門職としての看護 グローバル社会と看護					指定課題への取り組み
	14	まとめ 看護とは何か					指定課題への取り組み
	15	まとめ 発表					指定課題への取り組み
評価方法	・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				80%
	授業態度				◎		20%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は、科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	看護理論入門						
科目名(英)	Introduction to Nursing Theory						
単位数	1単位		時間数	30時間		担当者	福田 和美
実施年度	2022年度		実施時期	通年		担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
対象学科・学年	看護科・1年						
授業概要	看護知識体系の構造とその意味を理解し、看護理論を看護実践に活用できるよう科学的、実践的な思考を養う。(DP3)						
授業形式	講義： ○		演習： △		実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				看護知識体系構造とその意義を説明できる。	
	○	○		○		看護実践の基盤となる看護概念モデルを選択し、そのモデルについて説明できる。	
		○	○	○		選択した看護概念モデルまたは理論を事例に適用できる。	
テキスト・教材 参考図書	『看護理論第3版』 筒井真優美 南江堂 講師配布資料						
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	1	看護理論の特徴と目的					テキスト、資料の事前通読及び指定課題への取り組み
	2・3	ナイチンゲール					指定課題への取り組み
	4・5	ヘンダーソンの看護理論					指定課題への取り組み
	6	各理論における主要概念の捉え方					指定課題への取り組み
	7・ 8・9	気になる看護理論についての調べ学習と学び共有会					指定課題への取り組み
	10	マズローのニード論					指定課題への取り組み
	11	エリクソン・ハヴィガーストの発達モデル					指定課題への取り組み
	12・13・ 14	中範囲理論を活用した事例展開					指定課題への取り組み
	15	まとめ					指定課題への取り組み
	評価方法	・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
筆記試験		◎	◎				80%
授業態度					◎		20%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	基礎看護技術総論						
科目名(英)	Foundation of Nursing Technique						
単位数	1単位		時間数	30時間	担当者	松ノ木 幸恵	
実施年度	2022年度		実施時期	前期	担当者実務経験	病院にて看護師として勤務	
対象学科・学年	看護科・1年						
授業概要	基礎看護技術を学ぶ基盤として、基礎看護技術の基考え方やすべての看護技術に共通する技術(コミュニケーション・安全確保・感染対策)を学ぶことを目的に設定。(DP3)						
授業形式	講義: ○		演習: △	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				看護技術の定義・特徴・範囲、適切に実践するための要素について説明することができる	
	○	○				コミュニケーションの意義・目的・構成要素、効果的なコミュニケーションについて説明することができる。	
	○	○				安全確保の基盤となる技術について説明することができる。	
	○	○	◎	◎		安全確保の基盤となる技術を実践できる。	
テキスト・教材 参考図書	『ナースング・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ』メディカ出版 『ナースング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ』メディカ出版						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	看護技術の定義・特徴・範囲				テキスト、資料の事前通読及び指定課題への取り組み	
	2	看護技術を適切に実践するための要素				指定課題への取り組み	
	3	看護におけるコミュニケーションの意義・目的・構成要素				指定課題への取り組み	
	4	コミュニケーションの基本(態度)				指定課題への取り組み	
	5	効果的なコミュニケーション技術(傾聴・情報収集・説明)				指定課題への取り組み	
	6	効果的なコミュニケーション技術(看護カウンセリング)				指定課題への取り組み	
	7	コミュニケーションの実際・演習				指定課題への取り組み	
	8	看護技術の実際に向けて(実習室使用・実習着着用)・スタンダードプリコーション(標準予防策)に基づく手洗い)				指定課題への取り組み	
	9	安全確保の基礎知識・技術(患者誤認防止、安全な療養環境の整備(転倒・転落・外傷予防)				指定課題への取り組み	
	10・11	安全確保の基礎知識・技術の実際・演習				指定課題への取り組み	
	12	インシデント・アクシデント発生時の速やかな報告				指定課題への取り組み	
	13	効果的なコミュニケーション技術(傾聴・情報収集・説明)演習				指定課題への取り組み	
	14	効果的なコミュニケーション技術(報告・連絡・相談)演習				指定課題への取り組み	
	15	まとめ				指定課題への取り組み	
評価	・60%以上を合格とし、59%以下は再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				80%
	授業態度		◎	◎	◎		20%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	日常生活援助技術Ⅰ										
科目名(英)	Support Technique for Daily LifeⅠ										
単位数	1単位		時間数		30時間		担当者		松本 好美		
実施年度	2022年度		実施時期		前期		担当者実務経験		病院にて看護師として勤務		
対象学科・学年	看護科・1年										
授業概要	日常生活を整える援助技術として、環境・活動休息援助の、基本的な知識・方法を学び、ケアを実施提供できる基本的技術を身につける。(DP2・3)										
授業形式	講義：○		演習：△		実習：		実技：○		※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標					
	○	○				健康生活と環境との関連を説明できる。					
	○	○				快適な環境状態のアセスメントができる。					
			○	○		快適な病室環境を整えるための援助技術が実施できる。					
	○	○				健康生活と活動・休息との関連を説明できる。					
	○	○				活動・休息状態のアセスメントができる。					
			○	○		効率的で安全安楽なポジショニング技術が実施できる。					
テキスト・教材 参考図書	『ナースング・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ』メディカ出版 『ナースング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ』メディカ出版										
授業計画	回数	授業項目・内容						授業外学修指示			
	1	環境整備の意義・快適な療養環境の整備・安全な療養環境の整備(転倒・転落・外傷予防)						テキスト、資料の事前通読及び指定課題への取り組み			
	2	病室環境のアセスメントと調整と整備						指定課題への取り組み			
	3・4	学内演習：ベッドメイキング(臥床患者のリネン交換含む)						指定課題への取り組み			
	5	活動と運動の意義						指定課題への取り組み			
	6	安楽な体位とは、体位の種類と身体への影響						指定課題への取り組み			
	7	活動運動のニーズとアセスメント						指定課題への取り組み			
	8	活動の援助方法(安楽な体位の調整・体位変換・保持、自動・他動運動の援助)						指定課題への取り組み			
	9	休息と睡眠の意義・メカニズム						指定課題への取り組み			
	10	休息と睡眠のニーズに関するアセスメント						指定課題への取り組み			
	11	休息睡眠を促す援助方法						指定課題への取り組み			
	12	学内演習：安楽な体位・ボディメカニクス						指定課題への取り組み			
	13・14	学内演習：移乗・移送(車椅子での移送、歩行・移動介助、移乗介助、ストレッチャー移送)						指定課題への取り組み			
	15	複合技術による援助 環境・活動・休息のケア方法の実施(演習・技術試験あり) まとめ						指定課題への取り組み			
評価方法	・実技試験80%以上を合格とし、これを満たさなければ筆記試験に臨むことができない。 ・筆記試験60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。										
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他	
	筆記試験	◎		◎				◎			
	授業態度					◎		◎			
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。										

科目名	日常生活援助技術Ⅱ							
科目名(英)	Support Technique for Daily Life Ⅱ							
単位数	1単位		時間数	30時間		担当者	木本 佳菜美	
実施年度	2022年度		実施時期	通年		担当者実務経験	病院にて看護師として勤務	
対象学科・学年	看護科・1年							
授業概要	日常生活を整える援助技術として、清潔・衣生活援助と安楽をもたらす援助の、基本的な知識・方法を学び、ケアを実施提供できる基本的技術を身につける。(DP1・2・3・4・5)							
授業形式	講義：○		演習：△		実習：	実技：○	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
	○	○				清潔援助の基礎知識を説明することができる。		
	○	○				清潔状態に関する情報や援助の選択方法を説明できる。		
			○	○		清潔行動に関する基本的援助技術が実施できる。		
	○	○				苦痛の緩和・安楽確保の技術の基礎知識を説明できる。		
			○	○		安楽をもたらすケア方法を実施できる。		
テキスト・教材 参考図書	『ナースング・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ』メディカ出版 『ナースング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ』メディカ出版							
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示	
	1	清潔・衣生活の意義、目的、ニーズ、健康・心身への影響					テキスト、資料の事前通読及び指定課題への取り組み	
	2	清潔援助の効果、援助方法の選択、留意点					指定課題への取り組み	
	3	清潔・衣生活の援助：寝衣交換（演習）（点滴・ドレーンを留置していない患者の寝衣交換）					指定課題への取り組み	
	4・5	清潔・衣生活の援助：全身清拭・陰部の保清（演習）					指定課題への取り組み	
	6・7	清潔・衣生活の援助：洗髪（演習）					指定課題への取り組み	
	8	清潔・衣生活の援助：手浴・足浴（演習）					指定課題への取り組み	
	9	清潔・衣生活の援助：入浴介助・シャワー浴の介助・スキンケア・爪切り（演習）					指定課題への取り組み	
	10	清潔・衣生活の援助：口腔ケア・整容ケア（演習）					指定課題への取り組み	
	11	苦痛の緩和・安楽確保の技術とは、方法、効果、援助方法の選択 身体ケアを通じてもたらされる安楽とは					指定課題への取り組み	
	12	安楽の促進・苦痛の緩和のためのケア：安楽な体位、電法（演習）					指定課題への取り組み	
	13	安楽の促進・苦痛の緩和のためのケア：触れるケア、タクティールケア、 マッサージなど（演習）					指定課題への取り組み	
	14・15	複合技術による援助 清潔援助において安楽をもたらすケア方法の実施（演習・技術試験）（点滴・ドレーンを留置している患者の寝衣交換）					指定課題への取り組み	
評価方法	・実技試験80%以上を合格とし、これを満たさなければ筆記試験に臨むことができない。 ・筆記試験60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	筆記試験	◎	◎				70%	
	授業態度		◎	◎	◎		30%	
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。							

科目名	フィジカルイグザミネーション						
科目名(英)	Physical Examination						
単位数	1単位		時間数	30時間		担当者	木本 佳菜美
実施年度	2022年度		実施時期	通年		担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
対象学科・学年	看護科・1年						
授業概要	看護におけるフィジカルアセスメントとは、患者の状態を判断する目的がある。患者の状態から緊急性の有無を判断し、必要なケアを正しく判断するためにフィジカルイグザミネーションを身につける(DP3・4)						
授業形式	講義：○		演習：△		実習：	実技：○	※ 主たる方法：○ その他：△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				対象の健康状態を評価する意義と方法を説明できる。	
	○	○	○	○		バイタルサインの測定および記録・報告ができる。	
	○	○	○	○		基本的なフィジカルイグザミネーションを実施できる。	
	○	○	○	○		系統別フィジカルイグザミネーションで得られる情報からの異常な身体状況を説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	『ナーシング・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ』メディカ出版 『ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ』メディカ出版 『フィジカルアセスメントがみえる』メディックメディア						
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	1	観察とは、目的・方法(系統的、直感的観察法) 観察の視点(身体的・精神的・社会的アセスメント)					テキスト、資料の事前通読及び指定課題への取り組み
	2	ヘルスアセスメントとは：ヘルスアセスメントとフィジカルアセスメント・ フィジカルイグザミネーションの関係性・身体計測					指定課題への取り組み
	3	フィジカルアセスメントに必要な技術：①視診②触診③聴診④打診⑤問診					指定課題への取り組み
	4	バイタルサインの観察とアセスメント：①体温測定②脈拍測定③呼吸測定					指定課題への取り組み
	5	バイタルサインの観察とアセスメント：④血圧測定⑤意識					指定課題への取り組み
	6	バイタルサイン測定の実際：体温・呼吸・脈拍					指定課題への取り組み
	7	バイタルサイン測定の実際：血圧					指定課題への取り組み
	8	バイタルサイン測定の実際：血圧・意識					指定課題への取り組み
	9	フィジカルイグザミネーション・フィジカルアセスメントの実際：呼吸器系					指定課題への取り組み
	10	フィジカルイグザミネーションの実際：消化器系					指定課題への取り組み
	11	フィジカルイグザミネーション・フィジカルアセスメントの実際：中枢神経系					指定課題への取り組み
	12	フィジカルイグザミネーション・フィジカルアセスメントの実際：循環器系					指定課題への取り組み
	13	記録とは(記録の目的・記録の方法・種類)					指定課題への取り組み
	14	報告とは(報告の目的・方法)					指定課題への取り組み
	15	技術評価					指定課題への取り組み
環境	・実技試験80%以上を合格とし、これを満たさなければ筆記試験に臨むことができない。 ・筆記試験60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				70%
	授業態度		◎	◎	◎		30%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	地域・在宅看護の基盤						
科目名(英)	Basics of Nursing for Community/Home Health Care						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	角 美緒		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	病院にて看護師として勤務		
対象学科・学年	看護科・1年						
授業概要	地域・在宅看護の基盤となる地域・生活をとらえるために、地域で生活する人々とその生活と環境を理解し、地域のコミュニティやシステムがあるということを学ぶ。(DP1・2・3・4)						
授業形式	講義：○	演習：△	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				地域・在宅看護の基盤となる地域、地域で生活する人について説明することができる。	
	○	○				地域で生活する人々をとりまく環境について説明することができる。	
	○	○				地域・生活環境と人の生活・健康は影響しあっていることを説明することができる。	
	○	○		○		地域で生活する人々の日常における価値や意味の体験に触れることができる。	
	○	○				地域のコミュニティやシステムの概要について説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	『系統看護学講座 地域・在宅看護論[1]地域・在宅看護の基盤』, 医学書院 『系統看護学講座 地域・在宅看護論[2]地域・在宅看護論の実践』, 医学書院						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	看護の対象としての地域で生活する人の暮らし(暮らすということ)				テキスト、資料の事前通読及び指定課題への取り組み	
	2	看護の対象としての地域で生活する人の暮らし(支え合って生きるとは)				指定課題への取り組み	
	3	健康に影響する地域の生活環境(自然環境:気候、地理的環境など)(フィールド体験・演習)				指定課題への取り組み	
	4	健康に影響する地域の生活環境(文化的環境:地域の価値観、生活様式など)(フィールド体験・演習)				指定課題への取り組み	
	5	健康に影響する地域の生活環境(社会的環境:行政、教育、保健医療福祉システムなど)(フィールド体験・演習)				指定課題への取り組み	
	6	地域で生活する人々の日常における価値や意味の体験(フィールド体験・演習)				指定課題への取り組み	
	7	フィールド体験・演習の学びのまとめ				指定課題への取り組み	
	8	フィールド体験・演習の学びの共有				指定課題への取り組み	
	9・10・11・12・13	地域のコミュニティやシステムについて知る(フィールド体験・見学・演習など)				指定課題への取り組み	
	14	フィールド体験・見学・演習の学びの共有				指定課題への取り組み	
	15	フィールド体験・見学・演習の学びのまとめ				指定課題への取り組み	
	評価方法	・60%以上を合格とし、59%以下は再試験対象となる。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
筆記試験		◎	◎		◎		80%
授業態度					◎		20%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	地域・在宅看護論概論						
科目名(英)	Overview of Nursing for Community/Home Health Care						
単位数	1単位		時間数	30時間		担当者	角 美緒
実施年度	2022年度		実施時期	通年		担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
対象学科・学年	看護科・1年						
授業概要	地域・在宅看護論概論では、地域・在宅看護の目的・位置づけ・基本的視点をもとに、地域・在宅看護に関わる法令・制度を理解し、地域で生活・療養する人とその家族をサポートする看護の基礎的知識を学ぶ。(DP3・4)						
授業形式	講義：○		演習：	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				地域・在宅看護の目的、位置づけ、役割と機能が説明できる。	
	○	○				地域・在宅看護の対象、場、基本的視点について説明できる。	
	○	○				地域・在宅看護におけるケアマネジメント、多職種連携について説明できる。	
	○	○				地域療養を支える制度とその活用について説明できる。	
	○	○				地域療養を支える多様な場での看護の実際を理解できる。	
テキスト・教材 参考図書	『系統看護学講座 地域・在宅看護論[1]地域・在宅看護の基盤』, 医学書院 『系統看護学講座 地域・在宅看護論[2]地域・在宅看護論の実践』, 医学書院						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	地域・在宅看護の目的、在宅看護の位置づけ、在宅看護の役割と機能				テキスト、資料の事前通読及び指定課題への取り組み	
	2	地域・在宅看護の対象者、在宅看護の場、在宅看護の基本的視点				指定課題への取り組み	
	3	地域包括ケアシステムにおける看護の役割、自助・互助・共助・公助				指定課題への取り組み	
	4	地域・在宅看護におけるケアマネジメント、多職種連携・協働の意義				指定課題への取り組み	
	5	地域療養を支える制度①「医療保険制度」				指定課題への取り組み	
	6	地域療養を支える制度②「介護保険制度」				指定課題への取り組み	
	7	地域療養を支える制度③「訪問看護制度」				指定課題への取り組み	
	8	地域療養を支える制度④「訪問看護制度」				指定課題への取り組み	
	9	地域療養を支える看護が提供される多様な場 調べ学習(演習)				指定課題への取り組み	
	10	以下のような地域にある様々な施設などを調べ学習を通して、その法的根拠、利用者の特徴、看護の役割、など学ぶ				指定課題への取り組み	
	11	病院、居宅、訪問看護事業所、看護小規模多機能型居宅介護、通所サービス、介護保険施設、地域包括支援センター、介護事業所、など				指定課題への取り組み	
	12	地域療養を支える看護が提供される多様な場 調べ学習のまとめ(演習)				指定課題への取り組み	
	13	地域療養を支える看護が提供される多様な場 学びの共有(演習)				指定課題への取り組み	
	14	地域療養を支える看護が提供される多様な場 学びの共有・まとめ(演習)				指定課題への取り組み	
15	まとめ				指定課題への取り組み		
評価方法	・60%以上を合格とし、59%以下は再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				80%
	授業態度				◎		20%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	看護の対象を知る実習											
科目名(英)	Familiarization Practice in Objective Recognition for Nursing											
単位数	1単位		時間数		45時間		担当者		木本 佳菜美			
実施年度	2022年度		実施時期		前期		担当者実務経験		病院にて看護師として勤務			
対象学科・学年	看護科・1年											
授業概要	地域で暮らす人々の生活を理解し、健康を支える看護の意義を学ぶ。看護のメタパラダイムである人間・環境・健康・教育・看護とは何かを考え看護専門職業人とは何か、看護職の多様性について理解する。また地域の人々と看護師とのつながりとは何かを考え看護の課題を明確にする。(DP1・2・3・4・5・6)地域にて20時間、外来にて4時間実習、病棟にて4時間、学内にて17時間											
授業形式	講義:			演習:		実習: ○		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標						
	○	○	○	○		看護の対象を生活者として捉えることができる。						
	○	○	○	○		対象者の立場に立って健康について考えることの重要性を理解することができる。						
	○	○	○	○		地域で暮らす人々の健康にかかわる看護師の多様性を理解することができる。						
	○	○	○	○		地域の人々と協働活動の重要性を理解することができる。						
	○	○	○	○		主要概念である人間・環境・健康・看護・教育とは何かを考え、検討することができる。						
テキスト・教材 参考図書	「看護学概論」「看護理論入門」「基礎看護技術総論」「日常生活援助技術Ⅰ」、講義資料											
授業計画	週	授業項目・内容							授業外学修指示			
	1 週 間	地域・外来見学・病棟看護師インタビュー実習							実習要項の事前通読及び、指定課題への取り組み			
		地域で切らす人々の生活活動の場の見学・参加・体験							指定課題への取り組み			
		地域で暮らす様々な人々の生活活動から生活者を捉える							指定課題への取り組み、実習の学びの振り返り			
		人々の健康を支える看護師の役割							指定課題への取り組み、実習の学びの振り返り			
		地域の人々との協働活動を通した看護活動の役割							指定課題への取り組み、実習の学びの振り返り			
		地域で暮らす人々と人間・環境・健康・看護・教育の関係と影響							指定課題への取り組み、実習の学びの振り返り			
評価方法	・評価者:指導教員と臨床指導者。 ・評価基準:5段階評価【認知・情意】(70%)【態度】(30%)、100%を満点とし、60点以上を合格点とする。 ・評価方法:記録用紙、発問・発言、行動観察法とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度意欲		その他		評価割合
	レポート・発言・言動		◎		◎		◎				70%	
	態度						◎				30%	
履修上の注意	・出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。											